

## [004]糟屋演習林植物調査

初島, 住彦  
九州帝国大学助手

<https://doi.org/10.15017/14203>

---

出版情報 : 九州帝国大学農学部演習林報告. 4, pp.1-267, 1934-01. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン :  
権利関係 :

## (四) 分布上注意すべき植物並に保護すべき箇所

**Celtis Léveilléi** Nakai in Bot. Mag. Tokyo XXVIII. (1914) p. 264 et 265

コバノテウセンエノキ

本種は 1912 年佛國の H. Léveillé 氏により Fedde 氏の Repertorium 第十卷に濟州島産の標本を type として *Celtis Bungeana* var. *heterophylla* なる學名にて初めて紹介せられたり。從來朝鮮中部、南部並に對馬の特産なりと考へられしも近時著者は北九州に相當廣く分布するを知れり。即ち肥前にては長崎市附近(千葉氏採集)、黒髮山、多良村海岸に産し、筑前にては沖ノ島、津屋崎、本演習林、豊後にては祖母山麓神原に産す。然れども本演習林内荒平、飯盛、上ノ山の三團地に於ける如く多數生育する所を他に見ず實に珍とするに足る。本種は古生層の岩石地帯に生じ一見エノキに似るも亞喬木にして一米内外にして結實するもの稀ならず、葉は先端尾狀に尖り毛茸殆んど無く、果柄は長く、樹肌は灰白色にして彼の如く粗雜ならず。

**Quercus donarium** Nakai, Fl. Sylv. Korea. III. f. 16. (1917) p. 29

テリハコナラ

本種は 1914 年中井博士により 智異山麓の雙溪寺附近の山林内に發見せられ其後朝鮮の南部、中部、對馬にも産すること判明せり。然れども九州本土にては未だ産するを聞かず、本演習林内飯盛團地に産するは珍とし誇りとするに足る。本種はコナラに比し葉は大形且長橢圓形にして表面は深綠色を呈し、光澤強く、鋸齒は鋭く、内曲す。殼斗は稍々大形且稍々深く堅果又短大なり。

**Palura Tanakana** Nakai, Fl. Sylv. Korea. XIII. t. IX. (1923) p. 34

syn. *Symplocos Tanakana* Nakai in Bot. Mag. Tokyo XXXII. (1918) p. 227

クロミノサハフタギ

本種は高さ十米直徑二十糎にも達する亞喬木にして樹皮は灰白色を呈しキシヤノキに似たり。本種の分布は極めて面白く北は佐渡島より丹波を経て日本海側を南下し豊前、筑前、筑後、肥前(島原半島迄)に及び一方朝鮮海峽をへだて、濟州島、全

南、慶南の地に分布し完全に日本海側に限らる。

**Ostrya japonica** Sargent in Gard. & Forest IV. f. 58 (1893) p. 383

ア サ ダ

本種は本州にては稍々普通なる落葉喬木なるも九州にては一般に九州中央山脈に限られ低地に見るは稀なり。然るに本演習林内新建、生ヶ谷（植生圖参照）に産す、殊に生ヶ谷にありてはカギカヅラの如き暖地性の植物と混生し極めて良好なる生育をなすは奇異の感あり。

**Debregeasia edulis** Wedd. in Arch. Mus. Paris, IX. (1856) p. 462

ヤナギイチゴ

本種は南支那、臺灣等に廣く分布する二米以下の灌木にして九州南部より本州中南部迄分布するも日本海側北九州には極めて少く著者の知れる範圍にては門司半島に分布するの外未だ本演習林以外に産するを聞かず。

**Actinidia rufa** Planchon ex Miquel in Ann. Mus. Bot. Lugd. Batav. II. (1867)  
p. 15

syn. *Actinidia callosa* Lind. var. *rufa* Makino in Bot. Mag. Tokyo XV. (1901)

p. 147

ナシカヅラ

本州中南部以南琉球迄分布する藤本にして北九州にては海岸島嶼並に近海林地に稀に産するも本演習林内荒平團地の如き海岸を遠ざかる林内に見るは面白し。

**Cudrania cochinchinensis** Kudo et Masamune var. **gerontogea** Kudo et Masamune, Plantarum Formosanarum I. (1932) p. 27

syn. *Vaniceria cochinchinensis* Lour. var. *gerontogea* Nakai in Bot. Mag. Tokyo  
XLI. (1927) p. 515

カクワツガユ

本變種は南支那、臺灣、琉球、九州南部より太平洋岸に沿ひ土佐國迄北上するも日本海側北九州地方にては稀なり。本演習林内の上ノ山、新建の兩團地に生ず、殊

に新建園地に産するは幹の直径十糎内外に達し、十數米の上方に攀縁し、當地方には稀に見る老木にして保存の價値充分なり。

**Stephanotis japonica** Makino in Bot. Mag. Tokyo VI. (1892) p. 53

シタキサウ

ガガイモ科に屬する藤本にして臺灣、琉球、九州南部、土佐、紀州に分布するも九州南部より突然筑前國に飛んで現はれるは分布上面白し。當地方にては立花山塊並に福智山方面に限られ、本演習林にては新建園地の杉造林地附近に生じ稍々稀なり。

**Anodendron affine** Nakai, Trees & Shrubs Jap. ed. 2, I. (1927) p. 416

サカキカヅラ

本種は南支那、臺灣、九州、四國、紀州に分布する藤本にして北九州にては稀なり。本演習林内荒平、上ノ山、大倉(御手洗水)の三園地に生育す。荒平には直径五糎以上に達するものありて當地方稀に見る生育振りを示す。

**Elaeagnus hypo-argentea** Hatusima, sp. nov.

ウラギンツルグミ (新稱)

本種はツルグミに近きも葉は狭小にして裏面銀白色を呈し、萼筒は短大なるを特徴とす。福岡市近郊の山地に生じ稀なり。本演習林内新建園地に生じ、幹の直径根元附近にて十糎内外に達し十數米の上方に攀縁す。

**Cinnamomum pedunculatum** Nees var. **lancifolium** Hatusima, var. nov.

ホソバヤブニクケイ

本種は元來葉形の廣狹に相當の變化をなすも本變種はその極端品にして果枝の葉は披針形にして普通品に比し遙かに小形なり。

**保護すべき箇所**

荒平園地に於ける谷間の林道に沿ひたる北半部の急斜面の潤葉樹林(植生圖參照)には小面積なるに拘はらずヤナギイチゴ、ヤマビハ、ナシカヅラ、サカキカヅラ、

ホウライカヅラ、キジヨラン、ツルカウゾ、クルマシダ、アラガネシダ、カギカヅラ、ナガバノヤブソテツ、コバノテウセンエノキ、イハヒメワラビ、タイミンタチバナ、イブキシダ等當地方稀に見る暖地性植物並に珍奇植物多きを以て適當の方法により保護するを要す。

### (五) 演習林産植物數の統計

#### a. 系統分類上の統計

今演習林産植物數の統計を示せば次の如し。

範疇	區別	科	屬	種	變種	品種
古生花被區門		69	181	300	12	1
後生花被區門		29	119	197	6	1
雙子葉植物		98	300	497	18	2
單子葉植物		17	102	182	4	3
被子植物		115	402	679	22	5
裸子植物		3	3	4		
種子植物		118	405	683	26	8
羊齒植物		8	31	81	4	1
合計		126	436	764	30	9

#### b. 生活形上の統計

範疇	生活形記號									
	MM	M	N	Ch	H	G	T	E	L	計
古生花被區門	40	40	44	1	92	7	25	2	49	300
後生花被區門	3	16	18	2	101	1	36		20	197
雙子葉植物	43	56	62	3	193	8	61	2	69	497
單子葉植物		1	5		101	29	40	1	5	182
被子植物	43	57	67	3	294	37	101	3	74	679
裸子植物	2	2								4
種子植物	45	59	67	3	294	37	101	3	74	683
羊齒植物			1	4	63	1		11	1	81
合計	45	59	68	7	357	38	101	14	74	764